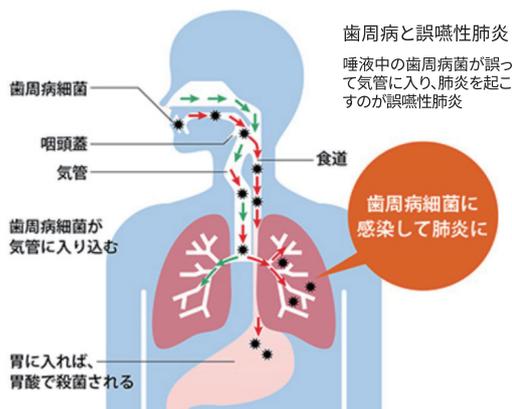


新型コロナウイルス感染症の死因は「肺炎」です

新型コロナウイルスに感染すると、ウイルス性肺炎を引き起こし、全身の免疫力が全力でウイルスと戦います。その免疫細胞は過剰に増殖し、やがて健康な肺細胞へもダメージが及びます。ダメージを受けた肺は細菌性肺炎を起こしやすくなり、症状は重症化。最悪の場合、死に至ります。

※ご家族皆様でご覧下さい。



誤嚥性肺炎と口腔内環境

飲食物を口に入れた時に細菌が唾液や胃液とともに肺に流れ込むことで引き起こされるのが誤嚥性肺炎です。

口腔内に細菌が増殖した状態のまましていると、肺炎の悪化リスクは高まります。

＋ 専門家による口腔内洗浄が感染予防につながる！

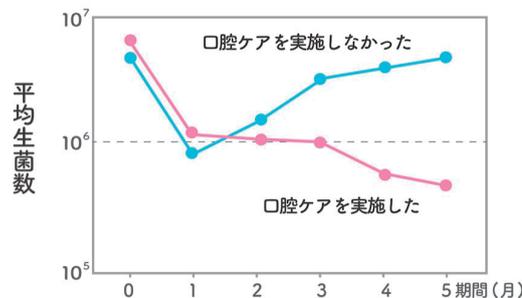
継続的に専門家による口腔ケアを実施した場合と実施しなかった場合、5カ月経過した時点での細菌数は10分1まで減少していきます。(※表1)

その後、2年間の肺炎発生率では、両者に1.7倍もの差が出てくることが研究結果によって分かっています。(※表2)

鶴見大学歯学部花田信弘 教授は、「正しい口腔内ケア」と新型コロナウイルス感染リスクについて、以下のように発表されています。

「歯周病菌など口の中の細菌は、いつも少量ですが肺の中に入っています。普段はそれで問題ないですが、新型コロナウイルスに感染すると肺の免疫力が低下することがわかっています。その状態で口の細菌が肺に入ると、ウイルスによる肺炎とは別に細菌による肺炎を起こすんです。**ウイルス性肺炎と細菌性肺炎のダブルパンチが危険なんです。**ウイルス感染の予防は難しいですが、続いて起こる細菌性肺炎の発症リスクを日頃からできるだけ低くしておくことが、新型コロナウイルスに打ち勝つポイントだと考えています。歯周病の治療や歯みがきだけでなく、舌みがきも忘れないようにしていただきたいです。」

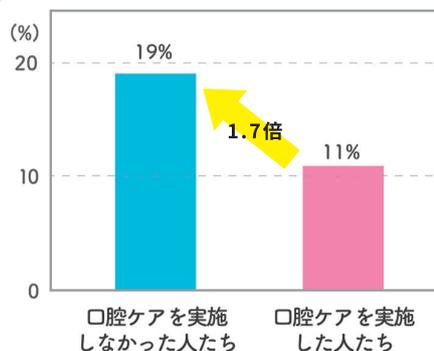
表1 専門的口腔ケアを実施した場合と実施しなかった場合の咽頭部総細菌数の変化



口腔ケアを実施した場合には、総細菌数は調査期間中減少し続け、5ヶ月目には開始前の約1/10となった。

弘田克彦ら、プロフェッショナル・オーラル・ヘルス・ケアを受けた高齢者の咽頭細菌数の変動、日老医誌、34、1997より引用改変

表2 2年間の肺炎発生率



佐々木英孝ら、III 主要疾患の歴史 11. 誤嚥性肺炎、日本内科学会雑誌創立100周年記念号第91巻第6号 2003より引用改変

引用：鶴見大学歯学部探索歯学講座 花田信弘 教授
NHK総合テレビ あさイチ「新型コロナウイルス感染症と口腔衛生の関係」